



第10回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2016年 **12月16日（金）** **15:00-18:00**

会場：**コングレコンベンションセンター(ルーム3)** (グランフロント大阪 北館 地下2階)
地図 → <http://www.congre-cc.jp/facilities/>

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：大阪医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「mRNA 分解による炎症調節メカニズム」

京都大学ウイルス・再生医科学研究所、AMED-CREST, AMED 教授 竹内 理

炎症は病原体感染や組織侵襲に対する免疫応答により惹起される。適切な炎症は感染の排除に重要であるが、炎症が慢性化すると自己免疫疾患や動脈硬化、代謝性疾患など様々な病気の発症へとつながる。生体には、炎症を適切に保つ機構が何重にも用意されている。中でも、mRNA 分解は、免疫細胞から産生される炎症性サイトカイン量を調節することで炎症の制御に必須の役割を果たしている。本講演では、演者らが同定した、炎症制御の鍵分子として働く RNA 分解酵素 Regnase-1 について紹介し、新たな炎症調節機構について議論したい。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「遺伝統計学で迫る疾患病態の解明とゲノム創薬」

大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学 教授 岡田 随象

遺伝統計学 (Statistical Genetics) とは、遺伝情報と形質情報の関わりを統計学の観点から研究する学問分野であり、一次的に処理されたゲノム情報を適切に解釈し、社会還元するためのデータ解析学問として注目されている。我々は、大規模ヒト疾患ゲノム解析により同定された数多くの疾患感受性遺伝子の情報を、多彩な生物学・医学データベースと分野横断的に統合することにより、新たな疾患病態の解明や、疾患バイオマーカーの同定、ドラッグ・リポジショニングを通じた新規ゲノム創薬、疾患疫学の謎の解明、等に取り組んできた。本講演ではその成果と共に、本邦において特に重要と考えられる、若手人材育成への取り組みを報告したい。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

申込先：参加希望者は2016年12月15日（木）までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。ただし、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

URL：<http://www.urban-ii.or.jp/>

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村、會澤）